

本を手渡すさまざまな方法ー図書館員にできること

1. 大人の読書・子どもの読書ーなぜ「手渡す」ことが大切か？

児童サービスに携わる図書館員の役割

→「本を知り」・「子どもを知り」・「子どもと本をよりよく結びつける」

2. 本を手渡すさまざまな方法

まず

「読み聞かせ」・・・耳からはじまる読書

「ストーリーテリング」・・・想像力と創造力

「ブックトーク」・・・読書興味を引き出し・広げる

それから

「科学遊び」・・・読書につなげ・読書から広がる

「アニメーション」・・・ワクワクする心, 「アニマ」は「魂」

さらに

「てあそび・わらべうた」・・・幼い子どもへの働きかけ

「紙芝居」・・・舞台上で演じる／大衆への働きかけ

3. 実践から学ぶー百聞は一見にしかず

おはなし会のプログラムから・・・読み聞かせ・ストーリーテリング・紙芝居など

【今日紹介した本など】

1. 『くだもの』 平山和子作, 福音館書店, 1981, 24p,
2. 『よかったねネッドくん』 レミー・チャーリップ文・絵, 八木田宜子訳, 偕成社, 1969, 42p,
3. 『こすずめのぼうけん』
ルース・エインズワース作, 石井桃子訳, 堀内誠一画, 福音館書店, 1977, 32pm
*おはなしのろうそく 13(東京こども図書館)
4. 『のはらうたⅢ』から「はなのたいそう」 工藤直子詩, 童話屋, 1987, 153p
5. 『たべられたやまんば』 松谷みよ子脚本, 二俣英五郎画, 童心社, 16 場面